

川崎市人権に関する市民意識調査報告書＜概要版＞

令和8（2026）年2月

川崎市では、令和元（2019）年12月に、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」を制定し、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進しています。

「人権に関する市民意識調査」は、市民の人権意識などを把握し、施策の検討等に活用するために実施しています。今回は、令和7（2025）年5月に調査を実施し、調査結果を報告書に取りまとめました。

調査の概要

調査目的

本調査は、人権に関する市民の意識を把握し、その結果を本市の今後の人権施策を総合的に推進するための基礎資料として活用することを目的とする。

調査対象

川崎市在住の満18歳以上の方2,500人

抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

調査期間

令和7（2025）年5月1日～令和7（2025）年5月30日

調査方法

郵送による配布・郵送回収／インターネット回答

回収結果

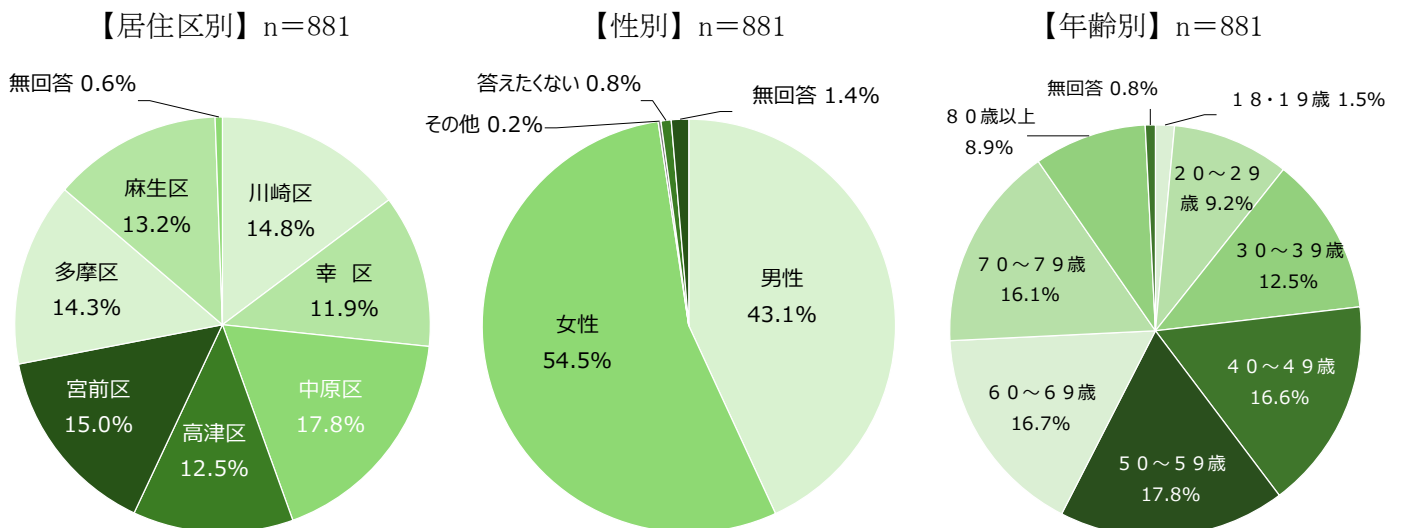
配布数	有効回答数	有効回答率
2,500通	881通	35.2%

調査項目

人権全般や個別の人権課題に関する設問など全30問

回答者の内訳

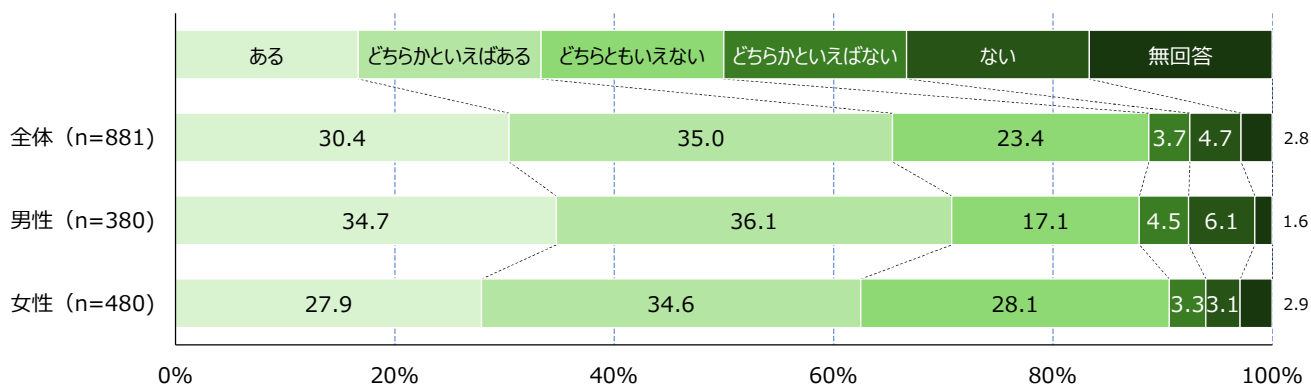
回答者の内訳は、次のとおり。



人権全般について

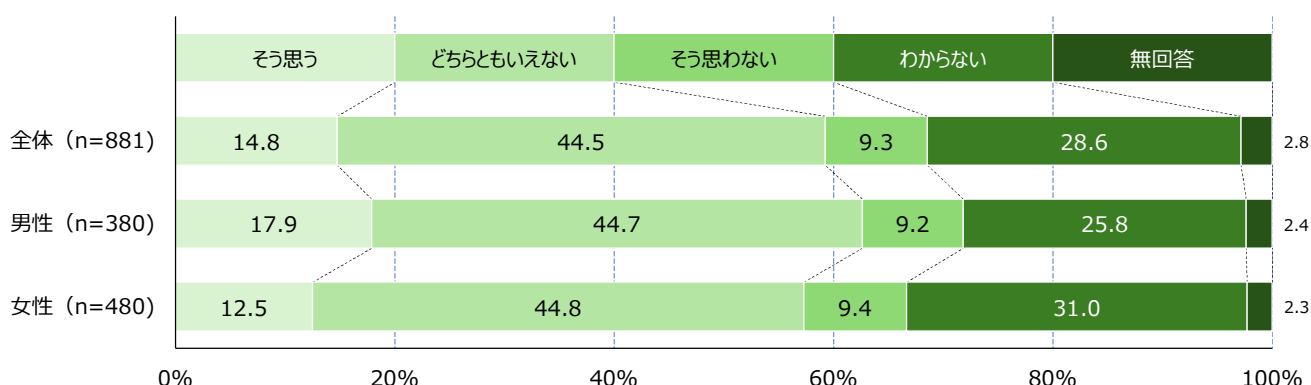
●あなたは人権について興味や関心がありますか。

「どちらかといえばある」が35.0%と割合が最も高く、次いで、「ある」が30.4%となっている。性別でみると、いずれの性別においても「どちらかといえばある」の割合が最も高い。「ある」では、男性が女性よりも6.8ポイント高く、「どちらともいえない」では、女性が男性よりも11.0ポイント高い。



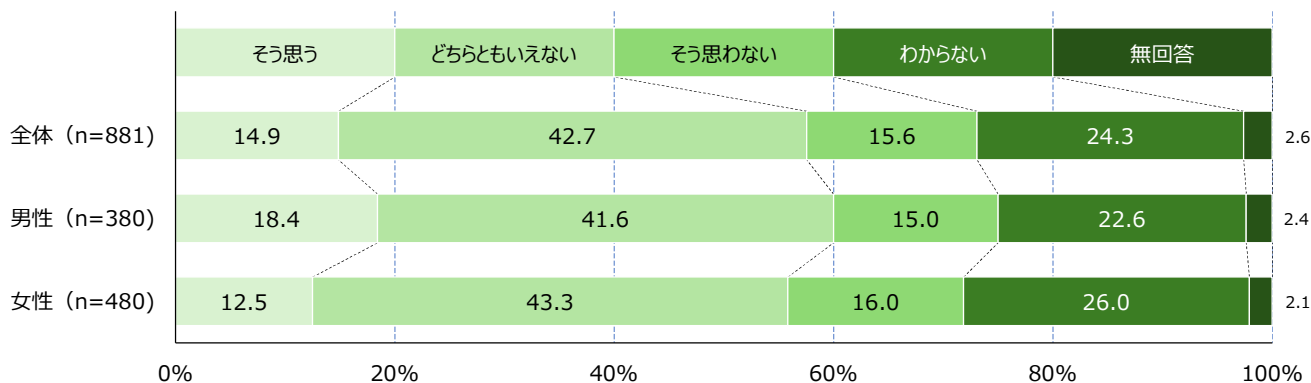
●川崎市では、一人ひとりの人権が尊重されていると思いますか。

「どちらともいえない」が44.5%と割合が最も高く、次いで「わからない」が28.6%、「そう思う」が14.8%となっている。性別でみると、いずれの性別においても「どちらともいえない」の割合が最も高く、「そう思う」では、男性が女性よりも5.4ポイント高い。



●川崎市では、一人ひとりが互いに違いを認め合い、共に暮らしていける社会になっていると思いますか。

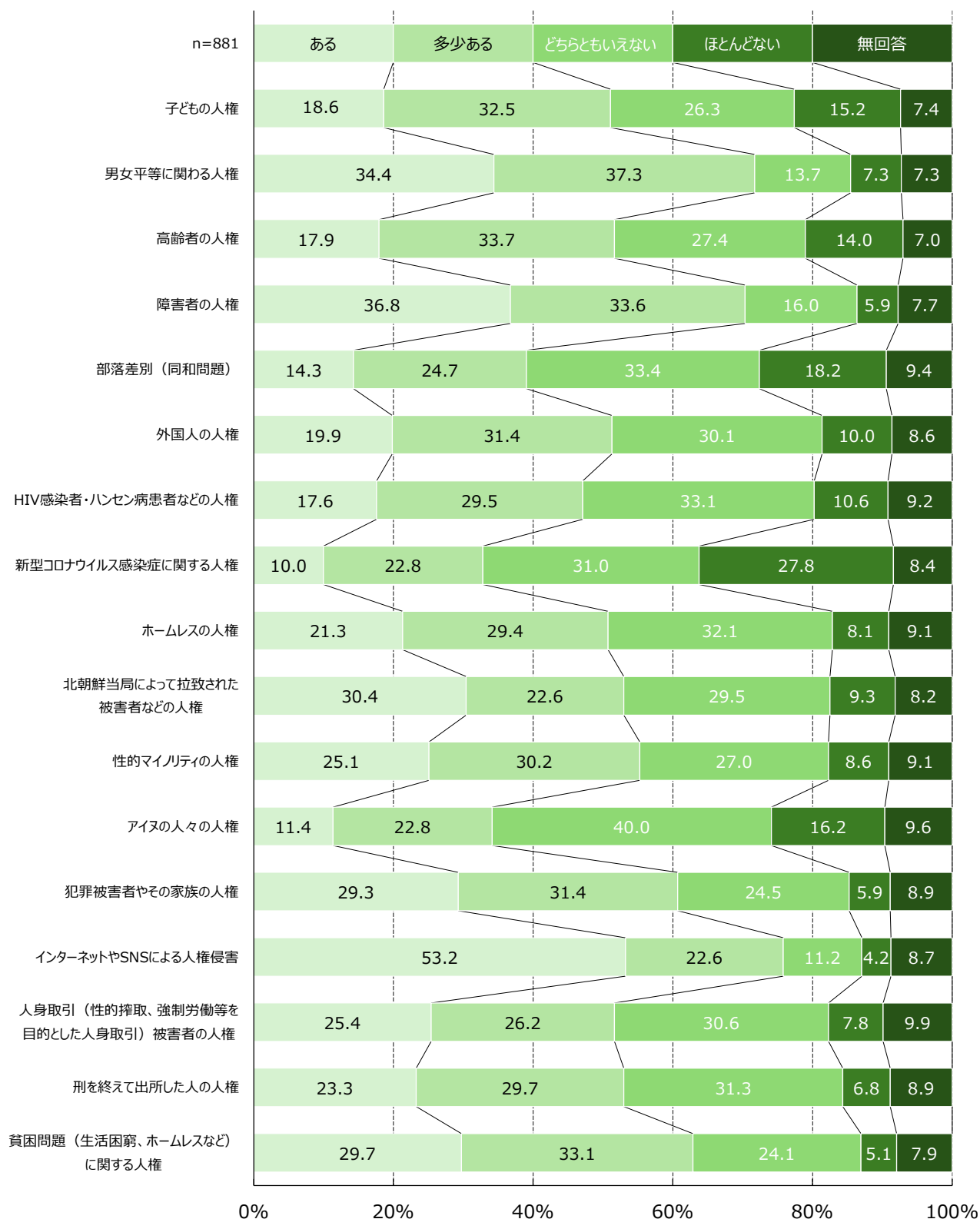
「どちらともいえない」が42.7%と割合が最も高く、次いで「わからない」が24.3%、「そう思わない」が15.6%となっている。性別でみると、いずれの性別においても「どちらともいえない」の割合が最も高く、「そう思う」では、男性が女性よりも5.9ポイント高い。



人権全般について

●次のそれぞれの人権課題について、現在、差別があると思いますか。

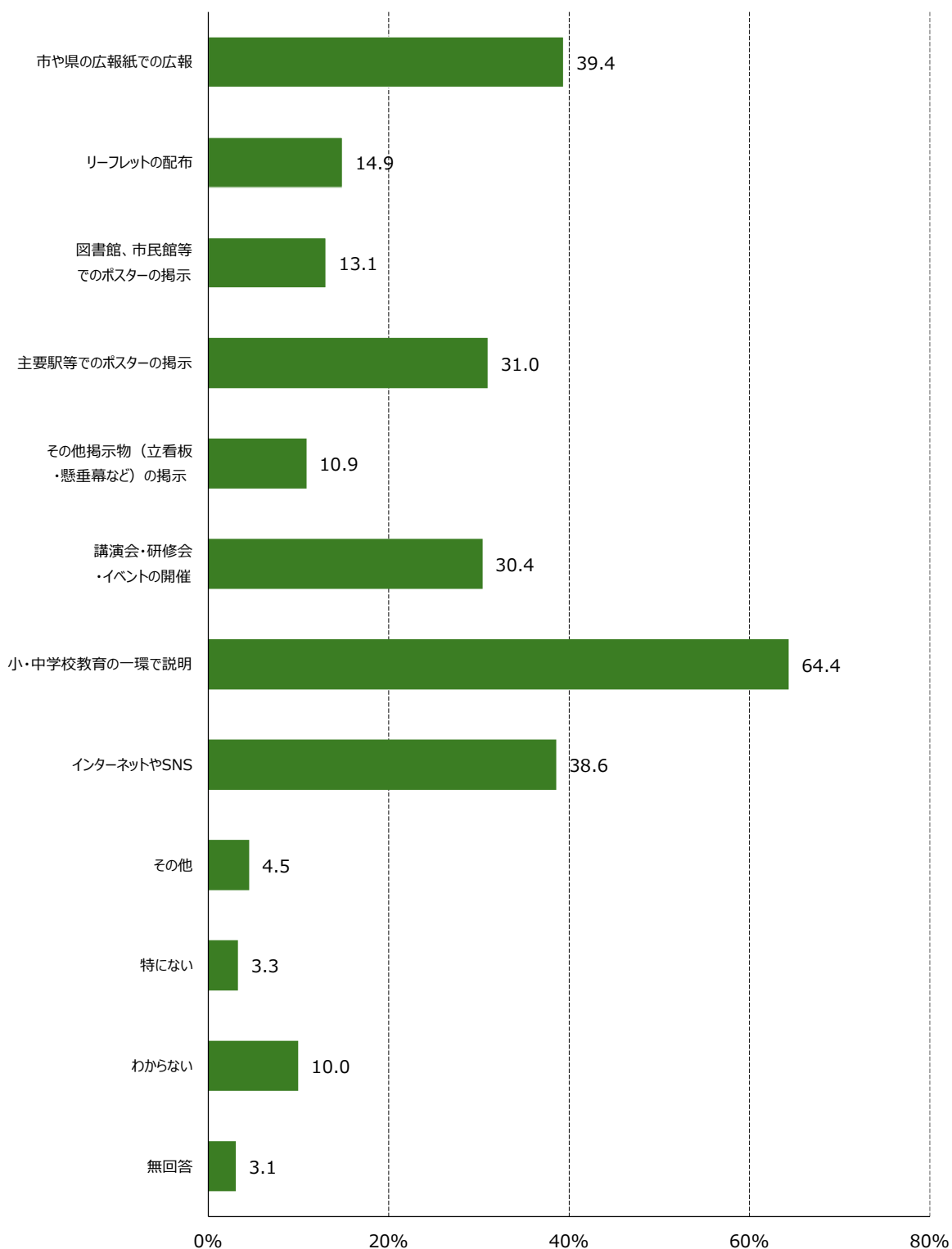
「ある」「多少ある」でみると、「男女平等に関わる人権」合計 71.7%、「障害者の人権」合計 70.4%、「インターネットや SNS による人権侵害」合計 75.8%と割合が高く、「ある」でみると、「インターネットや SNS による人権侵害」が 53.2%と割合が高い。



人権全般について

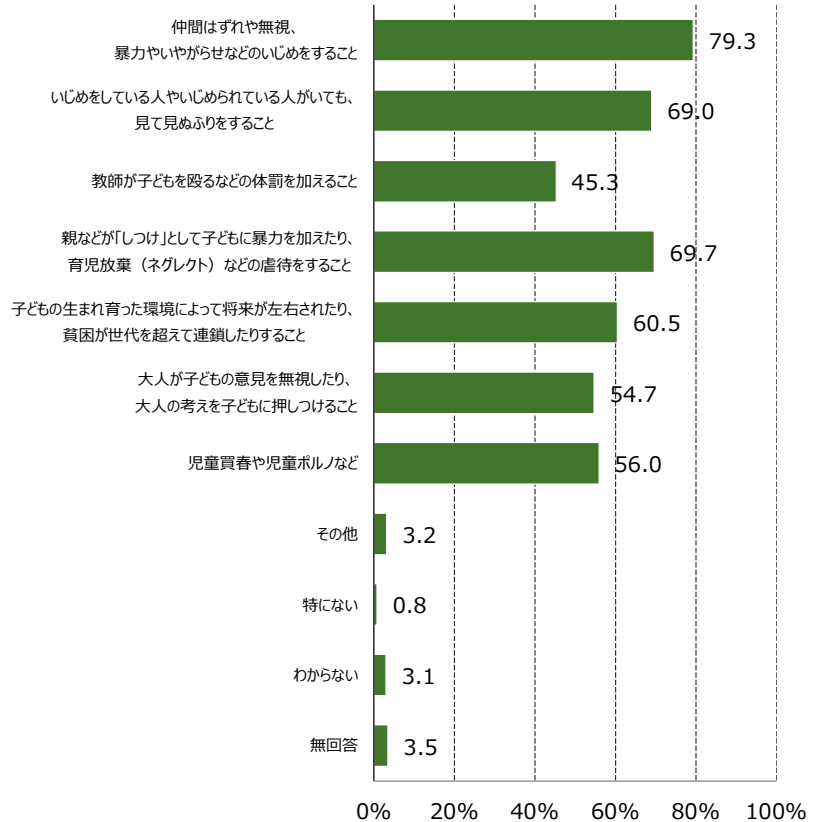
●不当な差別を解消し、人権尊重のまちづくりを推進する上で、市民の理解を深めるためには、どのような取組が効果があると思いますか。

「小・中学校教育の一環で説明」が 64.4%と割合が最も高く、次いで「市や県の広報紙での広報」が 39.4%、「インターネットや SNS」が 38.6%となっている。



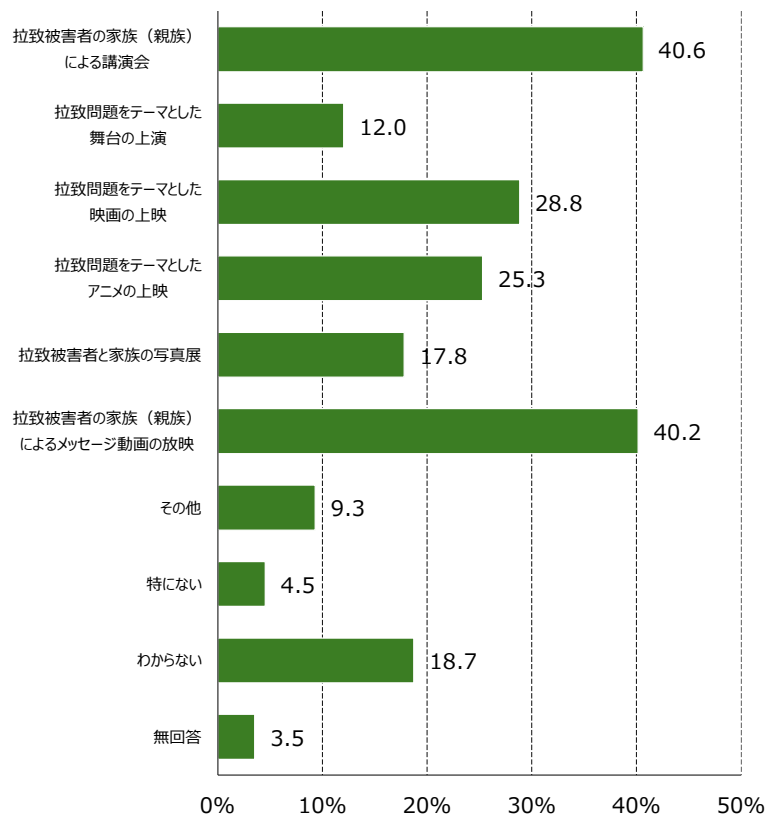
子どもの人権について

子どもの人権について、課題や問題だと思うことは何かを尋ねた質問では、「仲間はずれや無視、暴力やいやがらせなどのいじめをすること」が79.3%と割合が最も高く、次いで「親などが「しつけ」として子どもに暴力を加えたり、育児放棄（ネグレクト）などの虐待をすること」が69.7%、「いじめをしている人やいじめられている人がいても、見て見ぬふりをすること」が69.0%となっている。



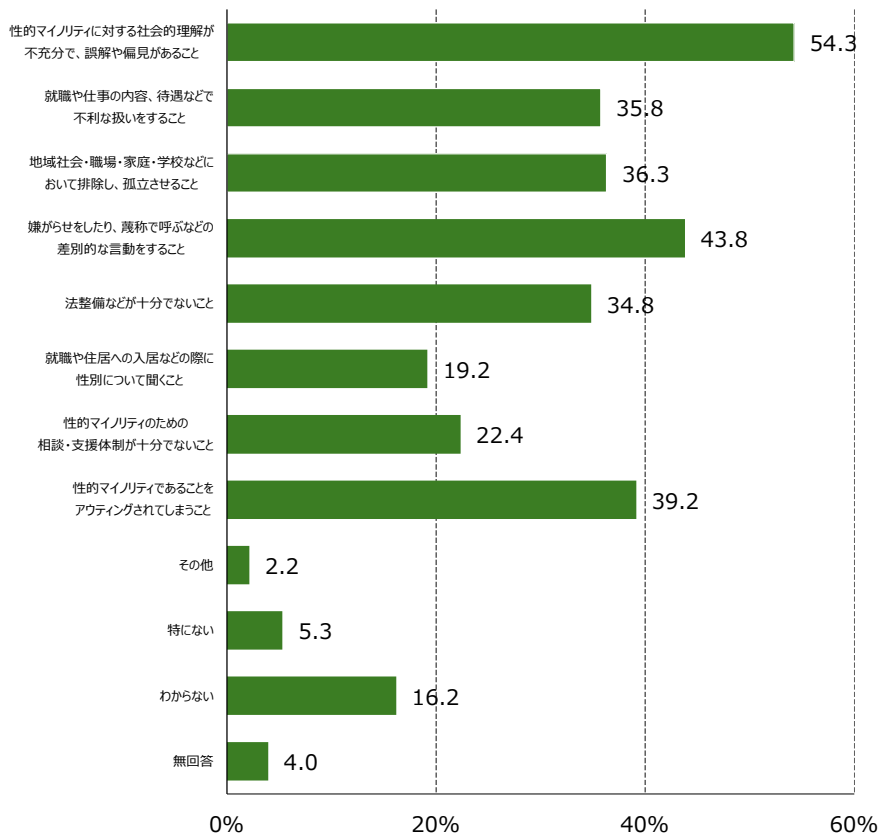
拉致問題について

拉致問題について、理解を深め、関心を持ち続けてもらうため、効果があると思う取組は何かを尋ねた質問では、「拉致被害者の家族（親族）による講演会」が40.6%と割合が最も高く、次いで「拉致被害者の家族（親族）によるメッセージ動画の放映」が40.2%となっている。



性的マイノリティの人権について

性的マイノリティの人権について、課題や問題だと思うことを尋ねた質問では、「性的マイノリティに対する社会的理解が不十分で、誤解や偏見があること」が54.3%と割合が最も高く、次いで「嫌がらせをしたり、蔑称で呼ぶなどの差別的な言動をすること」が43.8%、「性的マイノリティであることをアウティングされてしまうこと」が39.2%となっている。



インターネットに関する人権問題について

インターネットやSNSによる人権侵害について課題や問題だと思うことを尋ねた質問では、「他人の誹謗中傷や差別的表現など、人権を侵害する情報を掲載すること」が81.5%と割合が最も高く、次いで「一度掲載されると拡散し、完全に消去することが困難であること」が71.4%、「出会い系サイトや裏サイト・闇サイトなど、犯罪を誘発する場となっていること」が66.4%となっている。

